

RKU Today

流通経済大学広報誌

WINTER 2012

【特集】

RKU流 留学のすすめ



GORO

04 【特集】

文: 田畑 亨 (スポーツ健康科学部講師)

RKU流留学のすすめ

10 【学長室だより】

小池田富男 (学長)

大学の社会的評価と情報公開

12 【新連載】英語のなかに歴史を読む 第1回

石田 譲 (経済学部教授)

中世イギリス農村の暮らしを伝える言葉

14 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

16 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文: 馬場啓一 (法学部教授) / 撮影: 沖野雅広 (企画広報室)

吹奏楽部は花盛り 白磯哮先生・花坂義孝先生

18 【OB/OG 訪問】立川が聞く。

取材: 立川和美 (社会学部准教授)

橋本節夫さん (1978年3月卒業・東京新聞(中日新聞東京本社) 庶務部長)

20 【留学生紹介】

取材: 沖野雅広 (企画広報室)

ドルゴシェイナ・エリザベータさん (ロシア出身)
「流経大にいながら、世界の友達と交流しています」

21

流通経済大学校友会・図書館・観光クラブ
三宅雪嶺記念資料館からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS

第46回つくばね祭開催
2011年度春学期卒業式及び2010年度卒業生の卒業を祝う式典開催
永年勤続表彰
定期演奏会開催 (吹奏楽部/合唱部)
新体操部演技発表会
ラグビー部 関東大学リーグ優勝

巻頭言

RKU Today WINTER 2012



2011年10月のつくばね祭にて

復興の年である。
このようなときこそ全学一丸となり、
旧に復す努力をしなければならぬ。
いや、旧に倍する新たな目標に目覚め、
それを目指し、進むべきだろう。
大震災復旧以外にも、我が国の行く手には
困難が滞積している。
それらの一つ一つを過たず、過敏にならず、
解決してゆく姿勢が求められる。
学生の本分は勉学に勤しむことである。
だが国家の危機に際して、
無関係を通すことは出来ない。
諸君に何が求められ、我々に何が必要かを、
自らの目で確かめること、
これも、勉学と同様に重要なことであろう。
いまは、そういう時である。



国際化社会の到来に伴い、国境の壁は低くなり、我々は海外を自由に行き来することが可能となってきた。またLCC（ローコストキャリア）などの格安航空会社の普及により、海外への移動は昔前に比べ安価となり、国内旅行の価格で海外に行くことが可能な時代となった。さらにグローバルな時代となった今日では、社内の公用語を英語にする企業が増え、英語を用いてコミュニケーションを図る能力が、社会人に求められるようになってきている。こういったなかで、本学では、世界中の9つの国と地域に所在する大学と交流協定を結んでおり、学生並びに教員との交流が行われている。また、毎年本学の学生は、協定校以外の学校にも赴き、自らの語学力の向上につとめている。今回の特集では、本学の学生がどのように海外で学び成長しているか、紹介していく。文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

【特集】 R K U 流 留学のすすめ

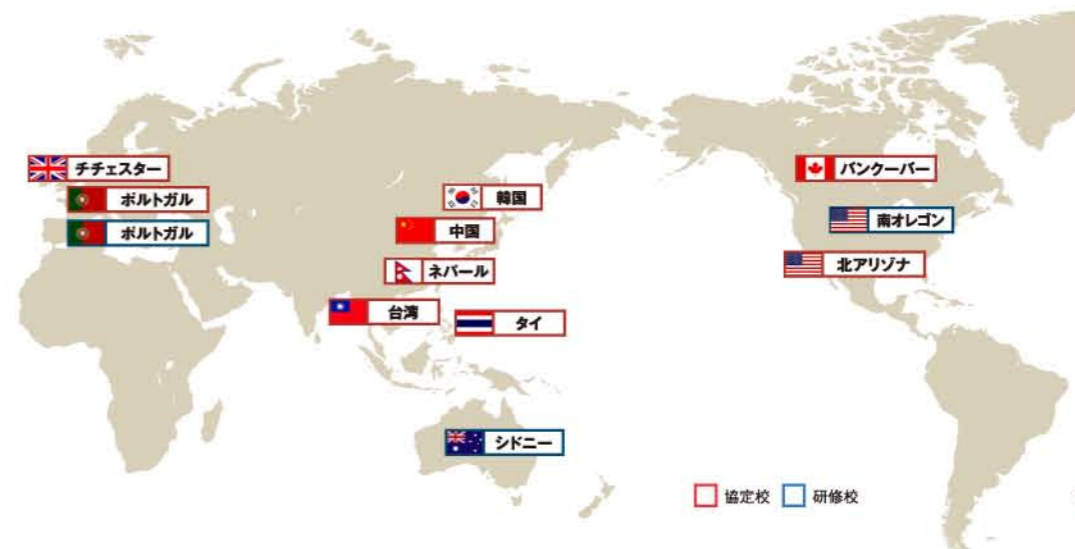
海外留学の現状

文部科学省が公表している「日本人の海外留学人数」によれば、調査開始の一九八三年の一万八〇六六名から毎年右肩上がりに増加し、二〇〇四年には八万二九四五名に達している。その後は年々減少し、二〇〇八年には、六万六八三三名という現状となっている。主な海外留学先としては、アメリカ、中国、イギリス、オーストラリアとなっており、英語圏内及び、中国語圏内への留学者が多い傾向にある。

国内企業においても、グローバル化の加速により社内公用語を英語とする企業が増えている傾向にあり、英語を話す能力が求められるようになってきている。

本学では、積極的に海外の大学と交流協定を結んできており、学生が海外で学べる環境を整え、また海外からの留学生も本学で学べるように、世界とのネットワーク構築に努めてきている。本学が海外の大学と協定を結んだのは一九八五年、中国の首都経済貿易大学が始まりである。その後、協定先を世界各地へと増やし、現在では、世界九つの国と地域に所在する一三の大学と交流協定を結んでいる。

また、本学では夏休みや春休みといった長期の休み期間に、短期で語学研修ができるプログラムも用意している。



〈海外協定校〉

- 韓国 南ソウル大学校
又松大学校
- 中国 首都経済貿易大学
北京物資学院
東北財經大学
海南大学
- 台湾 南台科技大学
大仁科技大学
淡江大学
- タイ タマサート大学
- ネパール トリプバン大学
- アメリカ ノーザンアリゾナ大学
- ポルトガル ベイラ・インテリオル大学

留学の窓口は 国際交流センター

本学での留学に関する相談は、国際交流センターが窓口となる。国際交流センターは、学生の海外への行き来が増加してきたことに対応して二〇〇七年に設立された部署である。ここでは、協定校への長期留学の相談はもちろん、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ポルトガル、イギリス、韓国と幅広い国への短期留学のための支援も行っている。

国際交流センターは、日本人の学生以外にも、海外から本学へ留学してきた学生に対しても学業に関する相談はもちろん、生活面や、在留資格の取得の手続きなどについても支援を行っている。

本学の留学システムでは、海外で実際に学んできた大学の授業を本学の授業単位として認定している。このことにより、長期で留学を終えた学生もスムーズに本学の授業に復帰することができ、また四年間でしっかりと卒業できる仕組みとなっている。



Center for International Study and Exchange

国際交流センター長 松田 英教授に聞く

流通経済大学社会学部教授で二〇〇七年より国際交流センター長に就任。英文学が専門である。若い頃にみた映画や書籍を通して英語に出会い、英語を学習するようになったという。そんな先生に、国際交流センターの現状と今後の展望について伺った。

——近年、留学をする学生が減少してきています。このような現状をどのように受け止めていますか。

留学をする学生が減少している原因は様々です。まず、経済的理由があると思います。日本での生活が厳しく、海外に出る余裕がないのではないのでしょうか。また、自分自身の語学力に対する不安もあると思います。さらに、高度情報化社会の到来も原因のひとつであると考えます。学生は、インターネットの検索システムやソーシャルネットワークを利用して、簡単に海外と結びつくことができ、だから、現地に行かなくても、海外の文化を知ることができてしまうのです。実際に自分の足で海外に行き、その土地の食べ物を食べ、人と話をして文化に直接触れるということが大変であると考えます。ですので、本学では、長期留学の前段階として「異文化研修プログラム」というものを用



意しています。

——異文化研修プログラムとはどのようなプログラムですか。

異文化研修プログラムとは、海外で語学研修やホームステイを行い、直接、海外の文化に触れる研修です。国はアメリカ、イギリス、カナダの英語圏はもちろんポルトガルや韓国も用意してあります。カナダやイギリスでは、語学やホームステイの他に旅行会社での就業体験（インターンシップ）も行えます。二週間から二カ月未満の期間で海外の文化に触れ、語学に対する不安を取り除いてその先の長期留学へと挑戦してもらいたいと考えています。



——今後の国際交流センターの展望についてお聞かせ下さい。

国際交流センターの役割は大きく分けて二つあります。一つは、より多くの日本人学生が海外に行き、様々なことを学ぶことのできる



環境をより一層整備することです。これについては、引き続き異文化研修プログラムの充実を図ることです。また、異文化研修プログラムで学んできた学生が帰国した際の受け皿の整備が必要であると考えます。受け皿とは、帰国した学生がこの異文化研修プログラムをただの「体験」で終わらせるのではなく、引き続き長期留学に向けた支援や、英語を日常的に学習する環境を整えることです。本学には、ネイティブスピーカーの先生が多くいらっしゃるので、その先生方の支援を受けながら、語学を自分ものにしてもらいたいと思います。

国際交流センターのもう一つの役割は、海外留学生の支援です。毎年本学には、多くの海外留学生が入学してきます。多くは中国、韓国からです。我が国も東アジア地域の一員として、これら留学生をしっかりと教育することで、東アジア地域の発展に貢献していきたいと考えています。

国際交流センターが支援する留学の種類

■ 交換留学

本学の協定校のうち、主に首都経済貿易大学、北京物資学院、東北財経大学、海南大学において半年～1年間「交換留学生」として学ぶ制度。留学先で学んだ科目は本学の単位として認定されます。また、留学先での授業料は免除されます。

■ 海外留学

協定校以外でも2カ月～1年間留学できる制度。この場合、留学先の大学を自分で選び、手続きも各自で行います。事前に本学に申請し承認されれば、留学先で学んだ科目は本学の単位として認定されます。費用は全学自己負担となります。

■ 異文化研修

春・夏・冬の休暇期間に2週間～2カ月間、語学の勉強やインターンシップを行う国際交流センターのプログラム。研修先はアメリカ、オーストラリア、カナダ、イギリスなど。費用は内容によって異なります。また、このプログラム以外の研修でも、事前に本学に申請し承認されれば、学んだ科目は本学の単位として認定されます。



“自分の意見を相手にきちんと伝えられたとき、何ともいえないうれしさがありました。”



経済学部経営学科3年
たか せしお
高瀬 汐さん

2011年 8月20日～9月10日
アメリカ・オレゴン州
で異文化研修
—Oregon—



研修期間の1日

- 06:30 起床
- 07:00 朝食(ホームステイ先のホストマザーと一緒に)
- 08:30 登校(他の家にホームステイしている友だちと昨日のことを話しながら)
- 09:00 授業(昨日の出来事や、午後のアクティビティ、英語の日常会話など)
- 12:30 昼食
- 13:30 (アクティビティがある場合)先生の車に分乗して観光など(伝統や文化などを自分の目や耳で体験)
- (アクティビティがない場合)友だちと40分かけてダウンタウンに行き買い物やプールで遊ぶなど
- 18:00 夕食(ホストマザーと一緒に)
- 19:00 フリータイム
- (1日の出来事を絵日記などにまとめる宿題などを行う)
- 23:00 就寝



私の母と同年代くらいの女性が一人で住んでいて、初の海外で緊張や戸惑いをみせている私を優しく

研修へ参加するための準備は？ 私、海外に行くのが初めてだったので、参加を決めてからは、英語の参考書を購入して、学校の図書館が閉館する時間まで勉強しました。

日常生活については、国際交流センターのスタッフに、スーツケースの選び方から、海外での生活マナーまで、たくさん相談にのっていただいたので、あまり心配はありませんでした。

買物で町の中を散策していると、全然知らない人からでも声をかけられることですね。最初はびっくりしましたが、三月に起

く受け入れてくれました。「おいしいアイスを食べに行こう」と出かけては、数時間かけて町の中を案内してくれたり、パワフルだけれども、いつも笑顔で気遣ってくれたので、すぐにうちとけられることができました。



きた東日本大震災のことだったり、ちょっとした日本についての質問だったり。アメリカの方がフレンドリーな感じなのは、些細なことですが、このちょっとした会話を成立させるコミュニケーション能力にあるんだな、と思いました。



わったと思います。どちらかといえば消極的な私でしたが、自分の意見を相手にきちんと伝えられたとき、何ともいえないうれしさがありました。

“自分の目や耳、足で日本の文化に触れたいと考え、交換留学生として日本に行こうと決めました。”



法学部ビジネス法学科3年
シュ ホウメイ
朱 方明さん

2011年4月～2012年3月
中国・海南大学
からの交換留学生
—China—



流通経済大学の授業の印象は？ 授業で強く印象に残っているのは文学(日本文学)と日本政治論の二科目です。

私は子どもの頃、日本のアニメが好きでよくテレビで観ていました。ある日、インターネットでアニメの日本語版を観たとき、中国語とは違う日本語の発音等に興味を持ったんです。



一つは、日本人の友達がたくさんできたこと。いつも優しく困ったことがあったら相談できる人ができたことは、私の幸せです。

よかった点は教えてください。よかったことは、いっぱいあります。



チャンスは自分で作るもの。みんなスタートは一緒です。私は、今回の留学に満足しています。私と同じでなくていいです。自分なりの留学スタイルを満喫してください。

ピーチ大会など、日本語の向上の場として、とても役に立ちました。三つ目は、一人暮らしをしたこと。中国では、大学入学と同時に寮に入ります。食事や学校の食堂が準備してくれるので、学校と寮の往復になります。でも、龍ヶ崎市に一人で住んで、食事を作り、アルバイトをするといった経験は、社会人として独立したときに、きっと役に立つと思います。

【学長室だより】

大学の

社会的評価と

情報公開

学長 小池田富男



vol. 11

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

我が国には四年制の私立大学は五八〇大学ほどあるが、平成二三年には、私立大学だけでも四九万人ほどの学生が入学してきた。しかし私立大学全体の入学定員充足率は、昨年よりも二%ほど減少しており、入学定員充足率が一〇〇%未満のいわゆる「定員割れ」大学は四〇%ほどに達している。幸いにも本学の場合、いまだかつて定員割れすることもなく、むしろここ数年は着実に受験者数を増やしており、平成二三年入試では、平成二〇年度受験者数の一・四倍ほどに達するまでになった。

とはいえ、あと数年で一八歳人口が二〇万人を割り込むようになれば、受験生の確保を目指した大学間の競争は熾烈を極めることになり、学生募集を停止する大学も増えることになろう。しかしこうした厳しい環境の中にあっても、流通経済大学は、創立五〇周年を間近に控えて更なる飛躍を目指しており、そのためには、本学に対する「社会的評価」をより一層高めることが必要となる。それは何よりも「教育」と「研究」、そして「社会貢献」という、大学の三つのミッションにおける実績に基づく

なければならぬ。大学の評価には様々な尺度が考えられる。いうまでもなく、大手予備校が公表している「偏差値」もその一つではあるが、しかし数多くある尺度のうちの一つではない。しかもそれは、大学の教育・研究の「実力」を示す指標というよりは、高校時代の学力水準を示すものにすぎない。むしろ、カリキュラムの充実度や「授業評価」における学生の満足度、教員の研究業績、卒業生の就職実績などが重要な指標となるべきであろう。また本学では、サッカーやラグビー、柔道等で全日本クラスの学生たちが活躍しており、大学の知名度を全国的なものにしているが、こうした課外活動もまた、優れた学生生活環境を示すものとして、大学評価の指標の一つかもしれない。

これまでつばら偏差値に基づいて大学をランクづけし、「受験戦争」を煽ってきたマスコミ界も、ここに来て様子が少し違ってきた。それは何も、偏差値やブランドだけが大学自体の教育・研究における「実力」の指標でないこと

ならなければならぬ。大学の評価には様々な尺度が考えられる。いうまでもなく、大手予備校が公表している「偏差値」もその一つではあるが、しかし数多くある尺度のうちの一つではない。しかもそれは、大学の教育・研究の「実力」を示す指標というよりは、高校時代の学力水準を示すものにすぎない。むしろ、カリキュラムの充実度や「授業評価」における学生の満足度、教員の研究業績、卒業生の就職実績などが重要な指標となるべきであろう。また本学では、サッカーやラグビー、柔道等で全日本クラスの学生たちが活躍しており、大学の知名度を全国的なものにしているが、こうした課外活動もまた、優れた学生生活環境を示すものとして、大学評価の指標の一つかもしれない。

これまでもつばら偏差値に基づいて大学をランクづけし、「受験戦争」を煽ってきたマスコミ界も、ここに来て様子が少し違ってきた。それは何も、偏差値やブランドだけが大学自体の教育・研究における「実力」の指標でないこと

いうよりは、昨今の厳しい就職環境の中で、いかに有名ブランドで高偏差値の大学であっても、卒業生の二割ほどがフリーターやニートとなり、また転職を繰り返しているといった、由々しき現状を目の当たりにしたからであろう。その意味で、「大学の実力」を多様な視点から評価しようとする、読売新聞教育取材班編「大学の実力2012」（中央公論社刊）は、大変参考になる。

「大学の実力」についての真の評価は、各大学の正確な情報開示によって初めて可能となるものである。そこで政府・文部科学省も、平成二二年六月の「学校教育法施行規則」の改正によって、すべての大学に、九項目にわたる教育研究活動等の状況についての情報公開を義務付けることになった。それは具体的には、①大学及び学部学科の「教育研究上の目的」、②教育研究上の組織、③教員の数並びに教員が有する学位、及び業績、④入学者の受け入れ方針及び入学者の人数、その他、就職の状況等、⑤授業科目、授業の方法及び授業の内容、年間の授業計画等、⑥成績評価及び修了認定の基準、⑦校



新松戸キャンパスで行われた「第8回 新松戸 光のフェスタ」点灯式

【学長の活動】 2011年10月～12月

10月

- 4日 学部長連絡会議
- 8日 2011年度春学期卒業式
2010年度卒業生の卒業を祝う式典
- 11日 茨城県経営者協会 関正夫会長来訪
- 17日 尚絅館竣工式、本郷谷健次松戸市長来訪
(株)カスミ 取締役総務部長内田勉氏来訪
- 18日 日本海運経済学会第45回大会挨拶
- 22日 拡大全学入試協議会、全学教員会議
- 25日 (株)エミー 代表取締役渡辺満枝氏来訪

11月

- 2日 第34回私立大学の教育・研究充実に関する研究会
経済学史学会(於京都大学)
- 5日～6日 拡大全学入試協議会
- 8日 学部長連絡会議
(株)筑波銀行 取締役会長溝田泰夫氏来訪
- 12日 父母懇談会(山形市)
- 13日 父母懇談会(盛岡市)、校友会盛岡支部
- 14日 韓国ウソン大学一行来訪
- 15日 (株)茨城放送 代表取締役社長土肥公仁氏来訪
拡大全学入試協議会
- 17日 日刊工業新聞インタビュー
(株)ホテルグランド東雲
取締役社長市川一隆氏来訪
- 25日 正則学園高等学校 訪問
- 29日 大学協議会
(株)取締役人材育成部長山田哲哉氏来訪

12月

- 2日 (株)資生堂副社長 岩田喜美枝氏との対談
- 3日 新体操発表会
- 5日 ロジスティクス産学連携コンソーシアム
- 6日 拡大全学入試協議会
- 18日 公益社団法人長寿社会文化協会シンポジウム
- 19日 学校法人日通学園第282回理事会
- 24日 つくばね旗剣道大会

地、校舎等の施設設備、⑧授業料、入学金等、⑨大学が行う学生支援というように、詳細を極めている。これらに基づいて、受験生や在学生、ご父母等のステークホルダーが各大学についての確に判断できるようにになったことは、大学の正当な評価につながるものとして、むしろ好ましいことだと考えている。

こうした詳細で正確な大学情報の公開によって、受験生の確保においても、また優れた研究者・教員の確保においても、大学間の格差は今後ますます拡大し、「実力」のない大学の淘汰が加速されるであろうことは、大いに予想されることである。そしてこれは、この間の政府・文部科学省が、高等教

育行政における「規制緩和」をうけて、一貫して意図してきた結果でもある。

教育に競争と淘汰の「市場原理」を持ち込むことには必ずしも賛同はできないが、しかしグローバル競争の時代にあつて、小資源国家の我が国が今後とも世界をリードしていくためには、「教育立国」を目指して、個性と才能を持った人材を一人でも多く育成していかなければならない。そのためには、何よりも、大学の教育・研究力を高めて、卒業生の「質保証」を図ることが肝要である。その意味でも大学情報の公開は、「認証評価制度」の導入と相俟って、教育と研究の質の向上に有効に機能しうる

と云って良い。

我が国における高等教育の質の維持向上を図り、グローバル化が進行する中での国際的通用性を担保する目的で、二〇〇二年に学校教育法が改正され、二〇〇四年から我が国の全ての大学に、文部科学大臣の認証を受けた「認証評価機関」による評価を七年毎に受けることを義務づけた。この三月でこの制度が開始されてから第一期の七年が終了し、大学の教育研究水準の向上に大きく貢献してきた。流通経済大学も、財団法人大学基準協会によって、二〇〇八年に同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けている。



深津絵里がカナダのモントリオール映画祭(二〇一〇年)で最優秀女優賞を受賞した映画『悪人』の英語タイトルは *WILLIAM* であった。辞書で *villain* を引くと、たしかに真つ先に「悪人」「悪漢」「悪役」「犯人」などの好ましがらざる訳語が飛び込んでくる。しかし、*villain* の *vil* は莊園や農場を意味するラテン語に由来し(「村落」を意味する *villare* ジ「*village*」の *vil* も同じ)、*ain* とは中世のイギリスで領主が所有・支配していた莊園の住民に農奴を意味したにすぎず、本来は何ら悪いイメージのない言葉であった。

農奴は自分の家族を養うために莊園領主から畑(農奴保有地)を借りていたが、その見返りとして週に二、三日は領主が直接経営する畑(領主直営地)で働く義務が課せられ、農奴の存在が莊園制にもとづく封建社会を成り立たせていた。農奴保有地の生産物は基本的に農奴のものであったが、領主直営地での労働(賦役)の成果はすべて領主のものになったから、農奴にしてみれば領主直営地での労働には身が入らず、機を見て手抜きをしようと思うのは当然といえは当然の成り行きであった。

そこで領主は、農奴が領主直営地で怠けないよう監督する管理人を選任するようになった。図1は農奴の刈り入れ作業を監視している管理人の様子を描いたものであるが、怠ける農奴を叩くために手にした棒は、領主が力ずくで農奴を働かせていたことを

象徴している。

莊園の規則や慣習を犯した者は罰金を科せられたり、見せしめのため、さらし台やさらし枷の罰を受けて一日に何時間も道端や辻でさらし者になった(図2)。さらし台に立たせられたり、さらし枷に足を挟まれて公衆の面前で辱めを受けた農奴は少なくない。

こうして、みずからの収益には全く結びつかない領主直営地での賦役労働を負わされた農奴たちは、隙あらば絶えずその義務から逃れようとする存在であった。それゆえ領主の目には、農奴は莊園の取り決めや慣習を破りがちな「悪人」として映ったのである。そこから *villain* にはしだいに「悪人」の意味が付加されていき、今では「農奴」の意味は後退して「悪人」の意味が前面にでるようになった。「悪人」を意味する *villain* には、支配者である遙か昔の莊園領主の農奴に対する思いが反映しているのである(ちなみに「農奴」の意味は、*villain* と語源が同じで一字違いの *villain* が担っている)。

領主はまた、領主が独占的に所有する製粉用の水車の使用を莊園の住民に強制し、使用料を取り立てていた。実際の粉挽き作業は領主に委託された粉屋(*miller*)がおこなうのだが、水車小屋(図3)に持ち込まれるときには「麦」であったものが作業が終われば「粉」に形を変えているのをいいことに、粉屋は、製粉した麦粉の一部をしぼれば親指(*thumb*)で掻きだして掠め取っていた。一四世紀の詩

人チヨソーも『カンタベリー物語』のなかで、挽き終えた粉を半分もくすね、それでパンをつくるよう女房にいつつけている「悪党シムキン」と呼ばれる粉屋を描いている。そんなわけで中世の粉屋の評判は芳しいものではなかったから、そこから *Every honest miller has a golden thumb*、という諺が生じた。表面上は「立派な粉屋にはみな金の親指がある」という言い回しだが、その真意は、「粉屋はみな不正直者ばかり(親指を使って粉をくすね取る)」ということなのである。そして、この諺がもたくなって、*miller's thumb* (粉屋の親指)といえは、「金

のなる木」「ドル箱」を意味するようになった。さらに、もこと露骨な「The miller is a thief (粉屋は盗人)」という慣用句も生まれた。粉屋と同じように、鋤や鎌など鉄製の農具を製造・修理する鍛冶屋(*smith*)も中世の農村にとっては真つ先に必要とされる職業であった。そして分業の発達とともに鍛冶屋や粉屋をはじめとする専門の職業が派生してくると、「鍛冶屋のジョン」とか「粉屋のウィリアム」という呼び方が広まっ

ていき、やがて職業名が苗字として通用するようになった。今でもイギリスで一番多い苗字は鍛冶屋を意味する *スミス* で、粉屋の *ミラー* は三番目に多い。

このほか、ベイカー(*Baker* パン屋)、カーパー(*Cooper* 桶屋)、カーペンター(*Carpenter* 大工)、カートライト(*Cartwright* 車大

工)、メイソン(*Mason* 石屋)、テイラー(*Taylor* 仕立屋)、ウェブスター(*Webster* 織布工)、ブッチャー(*Butcher* 肉屋)、シェパード(*Shepherd* 羊飼)など職業にもとづく苗字は非常に多い。ちなみにイギリスの元女性首相のサッチャーは屋根ふき職人(*thatcher*)、元アメリカ大統領のカーターは荷車屋(*carter*)に由来している。

ところで、莊園の農地は短冊状の細長い畑が集って成り立っていた(図4)。この細長い畑ひとつが一般的に「エーカー」の広さ(長さ二〇〇メートル、幅二〇メートルぐら)をもち、隣接する畑とは犂残しの畔溝(*furrow*)で区別されていた。そのため、畔溝(*furrow*)の長さ(*long*)という言い回しから *furlong*(フアールロング)約二〇〇メートル)という距離を示す単位が生じた。

この単位は、日本ではもっぱら競馬で使われており、昨年、三浦皇成騎手と結婚したタレントのほしのあきは、交際中に「結婚まで何ハロン?」とインタビュアーされているが(デイリースポーツオンライン二〇一〇年一月一三日)、この「ハロン」が *furlong* にはかならない。競馬場にはゴールまでの残り距離を示すハロン棒という標識が立っており(図5)、ラジオやテレビの競馬中継で「ゴールまであと一ハロン!」などという実況を耳にすることも多い。こんなところにも、遙か昔のイギリス農村の暮らしのありようが潜んでいるのである。

[連載] 英語のなかに歴史を読む (全4回)

Yuzuru Ishida 石田 譲 (経済学部教授)
何気ない英語の単語やフレーズのなかに秘められた昔の人々の思いがけない暮らしのありようを読み解いてみよう。

第1回 中世イギリス農村の暮らしを伝える言葉



棒を手に刈り入れ作業を監視する管理人 R.J.クーツ著、今井宏、朝倉文市 訳 『イギリス史II その人々の歴史 (全訳世界の教科書シリーズ2)』(帝国書院、1972)、p.100



さらし台に立たされたり足に枷をはめられて見せしめにされた人々 (上) J.F.Aylett, *In Search of History 1066-1485* (1983), p.67 (右) J.R.S.Whiting, *Crime and Punishment: A Study Across Time* (1986), p.28



粉挽き作業をおこなう水車小屋 R.J.クーツ著、今井宏、朝倉文市 訳 『イギリス史II その人々の歴史 (全訳世界の教科書シリーズ2)』(帝国書院、1972)、p.101



細長い畑が集まった莊園の農地 (1591年の莊園地図の一部) R.J.Unstead, *Struggle for Power: A Pictorial History 1485-1689* (1972), p.27



日本の競馬場で見られるハロン棒 日本の場合、ゴールから1ハロンごとに立てられた棒の数字は、ハロン単位ではなく残り何メートルかを表しており、写真の4は残り400メートル (2ハロン)を示している。



[教育学習支援担当]
宮本雅浩 係長

多様化する 学生に触れて

本学を卒業後、事務職員として入職してから19年目を迎え、現在は新松戸キャンパスの教育学習支援担当をしています。学生時代2学部3学科だった学部学科も、現在は5学部8学科となり大学自体も大きく変わりましたが、最近では、学生の多様化に伴い学生との関わり方に大きな変化を感じるようになりました。学生との面談など、日常的に接する機会が多いせいか、本当にさまざまなタイプの学生が増えたなぁと感慨深い思いです。

世間では、最近の学生はコミュニケーション能力が乏しくなったとも言われますが、大学の業務に関わる私たちも、今まで以上に学生との接し方を問われる時代になったと考えています。それはやさしく丁寧に接すればいいというものでもなく、厳しくすればいいというものでもない教育機関ならではの課題といえるでしょう。業務に携わっていく中、私も学生と一緒に成長していきたいと思ったり、一人でも多くの学生が本学から生き生きとして社会人として巣立っていくことを願っています。



[スポーツ健康科学部]
久川太郎 教授

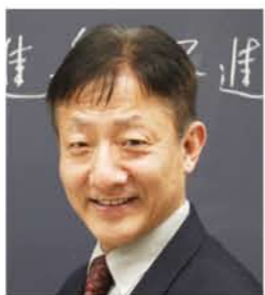
大学と共に 歩んでいる46年

東京都港区出身の先生は、東京教育大学(現：筑波大学)を卒業後、流通経済大学へ着任された。勤続46年を迎える。流通経済大学も創立46年である。大学の設置準備も担当されていた先生で、大学の発展とともに歩まれてきている。

先生の専門は「発育発達論」である。また障がい者スポーツの活動もされており、千葉県障がい者スポーツ協議会で委員も務められている。生涯スポーツの振興にも尽力されており、高齢者を対象とするスポーツイベントの企画や運営にも携わり、引退のないスポーツ活動を支援している。

46年間流通経済大学で多くの学生に接してきたが、ここ数年で大きく学生の様相も変化してきたという。現在、学生は大学に入学することが目的となっており、その先の将来について考えていない学生が増えたように思うという。新聞や書籍を大学生生活のうちによく読み、知見を広げ、自ら課題を見つけ解決する力を身につけてほしいと学生を指導している。

(田畑 亨・記)



[法学部]
山崎 徹 教授

「無為自然」と 「無用の用」

法学部開設と同時に赴任して10年目になります。中国語、教養諸学入門等を担当しています。専門分野は中国古代哲学で、儒家思想を中心に研究していますが、ものの考え方は道家思想に近いと思います。そこで「無為自然」と「無用の用」という言葉を学生諸君は考えて下さい。

「無為自然」とは、老子の思想で、世の中の価値というものには人の行為によって定められたものであり絶対のものではない。正不正や善悪ということも、その時の状況や各々の考えによって変わる。だからそれに捉われずに、あるがままに生きればよいということです。

「無用の用」は荘子の思想で、役に立つ立たないは各々の立場によって変わるもので、価値には何の基準もない。ある人には無用でも他の人には大変に有用なこともある。そもそも世の中に役に立たないものなどないということです。

諸君も必ずどこかで誰かの役に立っているはず。各々が自分の価値観を確立して、「自在に随所の主」となして下さい。



[流通情報学部]
百合本茂 教授

青年よ荒野を目指せ

企業や社会の様々な現象を数学的方法を用いて解析し、問題解決に導くという「OR基礎論」を担当している。OR(Operations Research)は鳩山元首相が学生時代に専攻していた関係で一時的に話題にもなったが、幸か不幸か1年足らずで首相を辞めたことで、話に出ることも少なくなった。

文科系大学では、数学が不得手な学生も多く、そんな学生にいかんにか理解してもらえるかに腐心してきた。

課外活動では、長い間ワンダーフォーゲル部の顧問をしていた。台北に住んでいる卒業生と台湾の山に登ったり、ヒマラヤ遠征の相談を受けたり、色々なことがあったが、残念ながら現在は部員減少のため休部となっている。近年、山や海外に目を向ける学生が減っていることは寂しい限りである。海外に出かけても、目立つのは中高年世代で、若者は中国人や韓国人ばかりという状況が続いている。昔、「青年は荒野をめざす」という言葉が流行ったが、今の若い人たちにもその言葉を捧げたい。荒野は文字通りの荒野のみならず、社会の荒波もまたそうであるから。



[社会学部]
沢谷 豊 教授

禅と社会システム論

ここ10年ほどあるお寺で何度か座禅をする機会があった。座禅というのは常識がまったく通用しない世界で、こんな世界があるのかと驚くと同時に、本当のことというものを教えてもらった気がしている。

私の専門は社会システム論であるが、じつは座禅を始めた一因がこの専門にある。私が研究しているのはニクラス・ルーマンというドイツの社会学者の理論であるが、彼の社会システム論の問題は、社会がどのように社会自身をとらえているのかということであり、これは私たちがどのように私たち自身をとらえているのかという問題と類似しているように思われたのである。これを外部との対比で自己言及とよぶが、それは自己の中の自己ということで、なかなかやっかいなのである。そこでヨーロッパ的思考とはまったく異質の座禅に目をつけたわけである。ところが何かと忙しく騒がしいご時世、いざ座禅をはじめるとミイラ取りがミイラになりかねないといったところで、注意、注意。まだ私にはなれない。



[経済学部]
岡本紀明 准教授

色々な角度から「会計」を 分析していきたい

講義では「簿記論」や「財務会計論」を担当し、現在は主に財務会計の研究に取り組んでいます。会計の面白い所は、様々な企業活動の成果が一組の数字に集約され、その数字が個人や企業ならびに経済の動きにまで影響を与える点にあると感じています。各講義で企業の利益などの数字を比較・分析して説明していますが、ひねくれ者のせいか、本当に会計数値が企業の実態を描写しているのか疑問を持ち続けています。学生時代に抱いたその疑問は、解消するどころか徐々に膨らみ、それが今の研究活動の原動力にもなっています。

現在、流経大の先生方及び職員の方々の多大なるご厚意により、英国のエジンバラ大学にて研究する機会を得ています。エジンバラ大学では、特に経済学以外の社会学等の知見を用いて金融や会計を分析する斬新な研究が進められており、世界的にも注目を集めています。その研究グループに自分が研究で貢献するにはまだまだ未熟ですが、この貴重な機会を利用して少しでも多くの事を吸収し、今後の研究・教育に活かしていきたいと考えています。

●白磯 哮／しらいそ・たける

27歳でビッグバンドのリーダーを約9年間務め、その後フリーとなりスタジオミュージシャンとなる。この期間に、多くのソロアルバムを出し、また多くの外国人プレイヤーと共演する。現在も前田憲男と猪俣猛の「キング・オブ・ジャズ・オーケストラ」のレギュラープレイヤーとして活躍中。平成7年9月、このオーケストラと共に、日本人では初めてニューヨークの殿堂「カーネギーホール」、ハーレムの「アホコンアター」で「デューク・エリントン追悼コンサート」に出演。平成8年には、「美空ひばりメモリアルコンサート」が「カーネギーホール」で行われた際に個人で出演する。

●花坂義孝／はなさか・よしとか

1978年東京芸術大学器楽科卒業。岩手県宮古市生まれ。在学中より、原信夫とシャープス&フラッツに入り東南アジアツアーに参加。その後、在学中に結成した金管アンサンブル「上野の森プラス」のトロンボーン奏者としてプラスの良さ、生の音楽の素晴らしさを人々に伝えるために国内はもとより世界各国で演奏活動を行っている。そしてアメリカから著名なスタジオミュージシャンを招いて行った「100人のトロンボーン」などを企画するなど、オールラウンドな立場から音楽文化向上のために貢献している。また、スタジオミュージシャンとして様々なジャンルのレコーディングに参加している。指揮者、バンドディレクターとしても多くの学生バンドやアマチュアバンドと交流を持ち、音楽の楽しさを味わって貰うべく活動を続けている。



馬場啓一の
RKU
ウォッチング

撮影：沖野雅宏（企画広報室）

RKU Watching



BABA KEIICHI

HANASAKA
YOSHITAKA



SHIRAISSO
TAKERU

【第17回】

吹奏楽部
白磯哮先生
花坂義孝先生

吹奏楽部は花盛り

本学の吹奏楽部は、実はひじょうに評価が高い。知らない向きもあると思うので、ここで強調しておく。

かつては毎年入学式と卒業式の行われていた龍ヶ崎キャンパスの澤村記念館の四階を根拠地としている。そこには小さいが響きの良いホールがあり、七〇〇人ほどの収容人員を誇る。流経大吹奏楽部は、ここで日夜練習に励んでいるのだ。

指導される先生はお二人。白磯哮先生と花坂義孝先生である。部員愛用の楽器が並ぶステージ脇で、お話をうかがった。

「本校の吹奏楽部は二〇年の歴史を有しています。歴史は長いとは言えませんが、近郷近在では大いに鳴らした存在です」と、白磯先生。吹奏楽部だけ

に、大いに鳴らしているのだ。「部員の男女比は大体一対二くらいですね」

こちらは花坂先生。どちらも、吹奏楽部の部員連中が可愛くてならない、というご様子である。「本学の近所に吹奏楽部に熱心な高校が複数あり、こういう連中は熱心ですね」

だから教え甲斐があるという。「まず経験者を募ります。ですが、楽器に触るのは初めて、という学生も。初心者でもぐんぐん上達する学生がいますから、その素質を見抜くのが、我々二人の重要な役目です」

四年やれば、立派な吹奏楽部のメンバーに成長するという。「昔はスーザとか所謂マーチ、つまり行進曲がレパートリーの大半を占めていました。ですが

最近、ジャズのビッグバンドの演奏するようなものを取り上げることが増えました」

そう言われる白磯先生ご自身も、ジャズのビッグバンドとは大いに深い関係をお持ちである。必要とする譜面の入手も昨今は随分ラクになったそうだ。

「ジャズとかポップスとかマーチといったカテゴリー分けがあまり意味を持たない。それが現在の大学や高校吹奏楽部の状況です」

要するに、何でも、やるのだ。だが音楽ファン、ことにジャズの好きな連中には堪らない。毎年恒例の吹奏楽部演奏会には、そういう人々が多数詰め掛ける



【吹奏楽部 戦績】
全日本吹奏楽コンクール
[2011年]
茨城県大会 金賞・朝日賞
東関東大会 金賞
[2010年]
茨城県大会 金賞・朝日賞
東関東大会 金賞
[2009年]
茨城県大会 金賞

が気軽にセッション出来る環境が整うと良い。なにしろ茨城いや関東一円に鳴り響いた流経大吹奏楽部なのだから。

「問題は学生一人ひとりの練習の場所です」

「以前はいちいちスタジオを借りたりもしましたが、今では専らカラオケ・ボックス」

これはアイデアではないか。デカイ音を出しても、まず文句は出ない。費用もスタジオと比べたら、うんと安上がりである。

「部員の結束は固いです。でも卒業しても続けているのは、多くありません」

勿体ないことだ。OBやOGが気軽にセッション出来る環境が整うと良い。なにしろ茨城いや関東一円に鳴り響いた流経大吹奏楽部なのだから。

回り道をした経験も決して無駄にはなっていないと思います。

橋本さんは、竜ヶ崎一高から
本学の経済学部に進まれたという
ことですが。

ええ。私は一九七〇年の安保の時代に高校に入学しまして、周りから敷かれたレールに乗って人生を進めてしまっただけの、かという疑問を持ち、実は高校卒業後、一年間、今のフリーターの走りのような生活をしていました。そうした生活の中で、社会的立場を得て世間から認められない限り、社会を変えることもままならないと実感し、進学を決めました。

大学では、浜田先生、小池田先生のゼミに所属されたのですかね？

大学二年生の時に、学内で「資本論」の読書会のポスター掲示を

れることになるのですかね？

四年生の時にマスコミを志望したのですが、実は就職試験に失敗して、一般企業に一年間勤務したんです。その後、自分の考えているような仕事をどうして欲しいと、大学の友人のついで茨城の小さなローカル紙に転職しました。現在の新聞社に入社するのはその後からです、そういった意味では、回り道をしてきましたね。ただ、こうした経験も決して無駄にはなっていないと思います。たとえば、ローカル紙では、記事を書く以外に広告をとってくる営業などもこなしましたが、相手との信頼関係の築き方、つまり自分がお願するばかりでなく、相手の求めていることを理解し、関係を築く術を学びました。その後、現在の東京新聞（中日新聞社）に入社し、水戸支局に配属になりました。県警本部や県庁の行政取材などを担当していたのですが、茨城県の鍼灸師国家試験漏洩事件のスクープをとったことが、大きな仕事となりました。このニュースは社会面のトップ記事となり、この報道がきっかけで事件が立件されたのですが、取材の過程で、漏洩に関わったと思われる人物に直接話を

OB/OG訪問 立川が聞く。

一度は一般企業に就職したものの転職してジャーナリズムの世界に入り、記者として活躍後、現在は東京新聞（中日新聞東京本社）で庶務部長を務められる橋本節夫さんにお話を伺いました。

第10期生
(1978年3月 経済学部卒業)

橋本節夫 さん
Setsuo Hashimoto

〈取材〉
立川和美（社会学部准教授）



目にしまして、浜田先生の研究室に出入りするようになりました。浜田先生からは、経済学はもちろんですが、ものの見方や考え方をそれから基本的な勉強の仕方などを教えていただきました。「社会現象の背景にあるものを考えることによって物事の本質が見えてくる」ということをよくおっしゃっていましたね。小池田先生は当時二〇代でいらして、学生とも年齢が近く、いろいろな話のできる先生でした。親しくお付き合いしていくにつれ、「やはりきちんと勉強をした人は自分とは違う」と刺激を受けました。こうした先生方と接することによって本当に多くのことを学びました。

現在のジャーナリズムの世界

に關心をお持ちになったのも、大学の頃からだったのでしょうか？
そうですね。大学二年の時のつくばね祭で、牛久で発生した下水道工事をめぐる健康被害問題について発表したのですが、それを通してルポライターや朝日新聞の記者と直接接することがありましたし、浜田先生がよくゼミの学生を連れて行ってくださった喫茶店のマスターがもと朝日新聞の記者で、そこにジャーナリストが多く出入りしていたといったことが、最初の出会いだったと思います。アルバイトもしたその喫茶店は、今はもうなくなっちゃったのですが、コーヒー一杯で延々と話をしたのは、良い思い出です。

卒業後は、新聞社でご活躍さ



最近になって、ようやくゆっくりにする時間ができるようになったという橋本さんは、ジャーナリストとしての強い使命感をお持ちの方で、お約束の時間を過ぎてでも丁寧にまた熱心にお話しくださいました。またインタビュー後は、活気ある本社の社内をご案内くださり、そこでは、職場での明るく優しいお人柄をお伺いすることができました。

聞きにいったところ、その家族から「公になれば家庭が崩壊してしまう。どうか書かないで」と泣きながら懇願されたんです。結局は記事にしたのですが、不正を暴くという意義の一方で、傷つく人もいるという現実を前に、単に「善か悪か」で割り切れない複雑な思いを抱きました。記者だって血も涙もある一人の人間ですからね。それからは報道で傷つく人もいることを忘れるなど肝に銘じています。

本社に戻られてからは、東京地検担当の時にリクルート事件を、また社会部デスクとして地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災などを担当したと伺っています。激務でいらしたのでしょうかね。

三〇代の頃ですが、朝七時前には家を出て、帰るのは夜中の一時過ぎ、お正月も休みなしという生活でした。新聞各社の競争が最も激しいポストにいましたから、どうしたら他社から一歩抜け出すことができるかということもいつも考えていましたね。とにかく仕事が次々と自分に降ってくる感じで、それをこなすだけで精一杯でした。組織では、「やりたい」とか「やりたくない」とか、自分の意思と

は関係なく仕事が続いてきて、それができなければ、ポストからはずされてしまう。社会というのはそういう厳しさを持っています。与えられた仕事を、真摯にこなしていくことしかないと頑張っていたのですが、今になって考えると、それが社会的使命を果たすことにもつながっていたのかもしれない。現在の庶務部長としての仕事でも、今までのそうした経験が生かされていますね。

それでは最後に、流経大生に一言お願いします。

人は生きていく過程でいろいろな物事に出会いますが、特に学生時代は「人」との出会いを大切にしたいと思います。私の motto としてしていることは「人からは学ぶことしかない」ということです。よいところは学ぶ、悪いところは反面教師とすればよいわけです。人から学んだことというのは、忘れることがありません。流経大は、一年生からゼミがあり、先生や友達と深く関わることができる環境が整っていますから、それを生かして、多くの出会いを大切にしたいと思っています。

【校友会】

6期生同窓会開催

2011年12月17日、6期生の同窓会が開催されました。龍ヶ崎キャンパスでの同期会の後は会場を移して懇親会が開催され、参加者の皆さんは還暦を迎えた旧友たちとの再会に時を忘れて語り合っていました。



【図書館】

2011年度第2回読書コメント大賞 受賞作品決定

〈2011年度第2回読書コメント大賞3作品〉



2011年度の第2回目となる「読書コメント大賞」には33点の応募があり、その中から大賞3点、優秀賞13点が選ばれました。

- ① 社会学科1年 長内瑠璃「謎解きはディナーのあとで」東川篤哉 著(小学館)
- ② 国際観光学科1年 小畑美幸「君たちはどう生きるか」吉野源三郎 著(岩波書店)
- ③ 社会学科2年 谷垣邦洋「カウンセリングとは何か」平木典子 著(朝日新聞社)

【観光クラブ】

観光クラブ総会開催

2011年9月24日、新松戸キャンパスにて第13回流通経済大学観光クラブ総会・懇親会が開かれました。約70名の卒業生・在学生・教職員が集まり、卒業生や教職員にとっては貴重な交流の場となり、在学生たちにとっては、先輩方から実際の現場情報を収集する良い機会となりました。



【二宅雪嶺記念資料館】

講演会「ナショナリストとしての三宅雪嶺」開催

2011年11月19日、三宅雪嶺記念資料館主催による講演会「ナショナリストとしての三宅雪嶺」が、新松戸キャンパス講堂にて開催されました。

中野目徹氏(筑波大学教授)による講演「近代日本のナショナリズムと三宅雪嶺」、三宅立雄氏(三宅雪嶺嫡孫・本学名誉教授)による講演「第二次世界大戦後の祖父・三宅雪嶺に対する評価について—その実感したところ—」のほか各種展示も行われ、改めて三宅雪嶺の功績を認識させる講演会となりました。



Hello! international student!



留学生紹介

vol.16

ロシア出身のエリザベータさん。上手な日本語で、楽しく充実した大学生活について語ってくれました。

取材:沖野雅広(企画広報室)



「流経大にいなながら、世界の友達と交流しています」
社会学部国際観光学科1年 ドルゴシエイナ・エリザベータさん
Dolgoshina Elizaveta



「構内で友達と楽しそうに話している姿をよく見かけますが、大学生活は楽しいですか?」

日本の友達や、教職員さんと接するのは、とても楽しいです。日本に住んでいるロシアの人たちは、他者より勝っているという意識を常に持ちながら、生活をしています。たとえば、「彼女はキレイだけど、私のほうがもっとキレイ」とか、「彼は、頭が良いけど、実は私のほうが」とか、とにかくプライドが高いんです。でも、日本人は初対面のときは、感情を抑えているのか、何を考えているかわからなかったんですけど仲良くなると、優しい気持ちがたくさん持った人なんだと気付きました。だからかな、日本人の友達をたくさん作りたいと思いました。

「サークルでは、どんな活動をしているのですか?」

サークルの名称はBBC(Bridge Between Countries)と名づけました。活動のメインは、異文化交流をすることです。さまざまな国の人と交流をもつことで、「文化・言語・教育」について学びたいというメンバーが集まりました。活動の場に、スカイプ(Skype)やフェイスブック(Facebook)をもちいているので、在学生だけでなく流経大の卒業生や海外の方もメンバーにいます。もちろん、カジュアルトークはできる限り英語を使うようにしているのですが、メンバーの英語力が伸びてますよ。今年、メンバー一人ひとりが目標をつけて、TOEICに挑戦する予定です。

「今、はまっているのはダンスです。独学ですが、サルサやサンバ、レゲトンなど、ネットの動画を見たりしながら何でも踊りますよ。昨年行われたつくばね祭では、BBCのメンバーでハロウィンの仮装をしてダンスを踊りましたよ。」

「これからの目標を教えてください。」
今はどんな仕事につくか決まっていないので、どんな仕事でもできるように「キャリア」の講義を受けながら力をつけていきたいです。もうひとつ、リーダーとしてBBCをもっともっと大きくするのが私の目標です。
※1 スカイプ(Skype) 世界中どこへでもコルが使えるソフトウェアのことです。ユーザーになれば、世界中のユーザーと無料で電話をかけることができます。
※2 フェイスブック(Facebook) インターネット上で構築するネットワークサービスのこと。

全学

1月

17日～30日 ●秋学期定期試験
31日～3月31日 ●春季休業

3月

20日 ●秋学期卒業式

4月

1日 ●入学式
2日～7日 ●RKU WEEK

就職関連(3年生対象)

1月 ●第8回就職ガイダンス
(就職戦線出陣式)
●業界・企業説明会



新松戸光のフェスタ点灯式の様子

[編集後記]

●今年度は、東日本大震災の影響で入学式、授業開始が2週間ほど遅れたため祝祭日も休まずに授業を行ってまいりましたが、そのことに対する不満は一切なく学生諸君は黙々と勉学に励んでくださいました。

2週間の冬季休業が過ぎ秋学期の授業が終ると1月中旬から下旬ごろまで定期試験が行われます。今年度も同じ時期に行われ学生諸君は、良い成績をあげることに挑み全科目の試験が済むまでは緊張の連続といった日々を過ごします。

定期試験は、その年度の勉学の成果を推し量る意味で特に重要な試験であり、学生の眼差しは真剣そのものです。図書館は懸命に試験勉強に取り組む学生で混み合う日が多くなってきます。

一人でも多くの学生が、満足できる成績をあげることが切に願っている次第です。

●今号の巻頭言でもふれておりますが、今年は昨年にもまして東日本大震災の復旧・復興に向けての動きが活発になる年になってほしいと願わずにはいられません。

昨年、11月21日に復旧・復興のための予算が組み入れられた今年度の第3次補正予算が成立しました。その後、同月30日にはその財源となる臨時増税などが盛り込まれた復興財源確保法案が参議院で可決されており、今まで以上に復旧・復興事業の推進が高まってくることを確信している次第です。

一日も早く復旧・復興が進み、まずは被災された方々のご不便な生活が解消されますことを心からお祈りいたします。

(編集子)

ラグビー部 関東大学リーグ優勝

6



ラグビー部が、関東大学リーグで悲願の初優勝をしました。

後半終了4分前に同点に追いつかれるなど、厳しい試合展開でしたが、あきらめない気持ちを持った選手、献身的に支えるスタッフ、大きな声で応援してくれた皆様の力で、勝利を掴み取りました。



2011年にスポーツ界で活躍した学生たち

2011年も本学の学生たちが国内、世界の大会で活躍しました。ご声援ありがとうございました。

競技種目	氏名	学科・学年	主な成績
ラグビー	辻 直幸	スポーツ健康科学科3年	U-20日本代表
	井上愛美	スポーツ健康科学科2年	女子7人制日本代表
サッカー	梅沢諒介	スポーツ健康科学科2年	全日本大学選抜
	比嘉祐介	ビジネス法学科4年	U-22日本代表 他
	山村和也	ビジネス法学科4年	U-22日本代表(キャプテン) 他
	増田卓也	スポーツ健康科学科4年	U-22日本代表 他
	中里崇宏	ビジネス法学科4年	ユニバーシアード日本代表 金メダル
柔道	河本明人	スポーツ健康科学科3年	ユニバーシアード日本代表 金メダル(MVP受賞)
	椎名伸志	ビジネス法学科2年	ユニバーシアード日本代表 金メダル
	中井貴裕	ビジネス法学科3年	グランドスラム・東京(81kg級) 優勝 他
剣道	川口恭佑	ビジネス法学科3年	全日本学生剣道選手権大会 出場
	本間健太	ビジネス法学科3年	全日本学生剣道選手権大会 出場
	工藤数馬	スポーツ健康科学科2年	全日本学生剣道選手権大会 出場
陸上	西丸雄貴	スポーツ健康科学科2年	全日本学生剣道選手権大会 出場
	佐藤 茜	スポーツ健康科学科4年	全日本学生剣道選手権大会 出場
弓道	前田康太	経済学科2年	第87回箱根駅伝 関東学連選抜5区 出場
	桜井 徹	スポーツ健康科学科1年	日本学生対抗選手権(砲丸投・円盤投) 出場
新体操	梅木佑介	経済学科2年	日本学生対抗選手権(1,500m) 出場
	菅原敬弥	スポーツ健康科学科1年	日本学生対抗選手権(走高飛) 出場
ライフセービング	五十嵐美沙	流通情報学科4年	全関東学生弓道選手権大会 5位入賞
	山口留奈	スポーツ健康科学科1年	シニアアジア新体操選手権大会 国別対抗銀メダル 他
ライフセービング	穴久保瑠子	スポーツ健康科学科3年	シニアアジア新体操選手権大会 国別対抗銀メダル 他
	小西夏生	スポーツ健康科学科1年	東日本学生新体操選手権大会 個人7位 他
	飯田純一	スポーツ健康科学科4年	第23回全日本学生ライフセービング選手権大会
	柴田遼太郎	スポーツ健康科学科4年	男子レスキュー・チューブレスキュー優勝
	大谷翔一郎	スポーツ健康科学科3年	
	大出 旭	スポーツ健康科学科2年	

第46回つくばね祭開催

1

10月29・30日の2日間、学園祭「つくばね祭」が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。学園祭開催中は、在学生をはじめ、卒業生や地域の方々などたくさんの方にご来場いただき、盛況のなか終了いたしました。

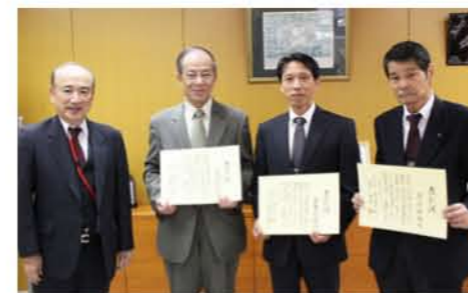


永年勤続表彰

3

2011年度春学期卒業式及び2010年度卒業生の卒業を祝う式典開催

2



30年にわたって本学に貢献してきた教職員に永年勤続の表彰がされました。今回表彰されたのは、河合榮三教授(経済学部)、山本道也教授(経済学部)、風間勝夫職員(総務課)の3名です。



10月8日、新松戸キャンパス内講堂において「2011年度春学期卒業式及び2010年度卒業生の卒業を祝う式典」が開催されました。式典終了後は懇親会も開催され、会場は大いに盛り上がっていました。

新体操部演技発表会

5

定期演奏会開催

4

12月3日、スポーツ健康センターにて、新体操部の演技発表会が行われました。華麗な演技に観客の歓喜の声援が送られました。



12月10日、吹奏楽部のクリスマスコンサートが、18日には合唱部の定期演奏会が新松戸キャンパス講堂で開催され、地域住民の方々など多くの観客が来場されました。



2012年度入試日程

全学部／学科共通

経済学部	経済学科・経営学科
社会学部	社会学科・国際観光学科
流通情報学部	流通情報学科
法学部	ビジネス法学科・自治行政学科
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科

入試種別		出願期間	試験日	合格発表	試験場
大学入試 センター試験 利用入試	I	12/19(月) } 1/26(木)	個別試験は実施しない	2/9(木)	—
	II	12/19(月) } 2/22(水)	個別試験は実施しない	3/1(木)	—
一般入試 (3科目型)	I	12/19(月) } 1/31(火)	2/4(土)	2/9(木)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸・高崎・静岡
	II	12/19(月) } 2/7(火)	2/14(火)	2/21(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 郡山・長岡・小山・新大阪
	III	12/19(月) } 2/20(月)	2/24(金)	3/1(木)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸
一般入試 (問題自由選択型)	I	12/19(月) } 1/24(火)	2/1(水)	2/7(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸
	II	12/19(月) } 2/7(火)	2/15(水)	2/21(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 郡山・長岡・小山・新大阪
	III	12/19(月) } 2/29(水)	3/6(火)	3/13(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸・高崎・静岡

一般入試 (問題自由選択型) とは

国語、外国語、数学の3教科で大設問が2問ずつ(計6問)出題され、うち2問を自由に選択できます(当日試験開始後、問題を見てから解答したい2問を選べます)。



例1

「得意な国語だけで受験したい!」

「国語だけ」といった、1教科だけでも受験可能



例2

「苦手な数学以外で受験したい!」

「国語と外国語(英語)」のように、2教科の組み合わせでも受験可能



詳しくは受験生向け
スペシャルサイトへ

Special Website



http://www.rku.ac.jp/go

http://www.rku.ac.jp/go/m

流通経済大学入試センター

0120-297-141

ees@rku.ac.jp

RKU RYUTSU KEIZAI
UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.18** 2012年1月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

